

「さんべ絵本フェスタ」

1 趣 旨

- ・絵本や読み聞かせのすばらしさを知り、進んで読書活動をする子供を育てる。
- ・交流の家で生活することで、家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成 29 年 11 月 11 日 (土) ～12 日 (日)
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 後 援 島根県立図書館、大田市中央図書館
- (4) 協 力 島根県立三瓶自然館サヒメル、美郷町立図書館、絵本専門士の皆さん
- (5) 講 師 絵本作家 あべ 弘士 氏 (NPO 法人かわうそ倶楽部 理事長)
- (6) 対 象 ①幼児～小学生とその家族
②図書館関係者や読み聞かせグループ等絵本に興味のある方
- (7) 参加者 ①129 名 (募集 150 名)
②2 名 (募集 50 名)

(8) 日程・研修内容

	14:00	14:30	15:00	16:30	17:10	19:00	20:00	22:00	22:30
11/11 (土)	受付	はじまりの会	絵本トラベル ～絵本のいろんな世界 を旅しよう～ ※絵本専門士や図書館職員などの絵本の読み聞かせブース	夕食・入浴	タベのつどい	絵本で学ぶ せいめいのれきし ※サヒメルの学芸員によるお話と化石のレプリカ作り	入浴・休憩	就寝準備	就寝

	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	12:00		
11/12 (日)	起床	朝のつどい 清掃	朝食	身辺整理	退所点検	さんべでワークショップ ～あべ弘士さんと きりんをつくろう～ ※ダンボールで各々キリンをつくる	サイン会 解散	解散後 14:00～ サヒメルにて、学芸員による参加者限定「ミュージアムトーク」があります。 希望者のみ

3 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、近隣の図書館や読み聞かせ団体と連携し、絵本の読み聞かせブースやワークショップをすることで、絵本や読み聞かせのすばらしさを知り、進んで読書活動をする子供を育てることをねらいとしている。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

参加者に読み聞かせのすばらしさを知ってもらいたいと思い、1日目の午後に、6つの読み聞かせブースをそれぞれのテーマに「くに」と見立て、それぞれのブースに旅してもらう「絵本トラベル」を実施した。夜は、恐竜展を開催中の三瓶自然館サヒメルと連携し、会場に恐竜の化石のレプリカを展示しながら、絵本を使った化石や恐竜のお話、アンモナイトの化石のレプリカ作りを実施した。2日目は、絵本作家のあべ弘士さんのワークショップを開催し、ダンボールでオリジナルのキリン作りを行った。今回、いろんなテーマの絵本の読み聞かせと絵本と関連付けたワークショップ（恐竜、動物）を組み合わせることで、絵本に興味のなかった方にも、楽しめるような企画になるよう努めた。

4 成果と課題

〈成果〉

- ・「絵本トラベル」では、好きなテーマの絵本のブースに行き、それぞれ特色のある読み聞かせを楽しんでいた。特に、絵本専門士の読み聞かせブースは、絵本の専門家として、いろいろな手法での読み聞かせをしてもらい、参加者に大変好評であった。
- ・子供が興味を持ちやすいテーマ（恐竜・動物）の絵本と関連付けたワークショップをすることにより、絵本をより身近に感じることできるとともに、家族で一緒に行う工作の時間や完成した作品が家族の思い出となり、より家族の絆を深めることに役立てられたと考える。

〈課題〉

- ・参加対象者が「幼児～小学生」と幅広かったため、活動によっては、適齢ではない内容もあったため、年齢層を絞るか、どの年齢層でも満足できる内容にするのかを検討する必要がある。
- ・あべ弘士さんの会場確認や事前打合せがワークショップ当日の朝となり、会場レイアウト変更などに時間がかかり、慌ただしい開始となったため、前日に確認してもらえる日程調整を行うか、より細やかな事前確認する必要がある。

＜連携のポイント＞

三瓶地域の図書館、公民館、読み聞かせボランティアに読み聞かせブースを担当してもらった。また、近隣の三瓶自然館サヒメルの学芸員に、化石や恐竜のお話、アンモナイトの化石のレプリカ作りの講師をしてもらった。翌日もサヒメルで「ミュージアムトーク」を行ってもらった。



「絵本トラベル」の絵本専門士の読み聞かせブース。参加者は、「わくわくのくに」の世界に引き込まれていました。

「絵本で学ぶせいめいのれきし」。化石や恐竜のお話を聞き、アンモナイトの化石のレプリカを作りました。

「さんべでワークショップ」で世界に一つだけのキリンをダンボールで作りました。どれも個性的です。

(担当：事業推進係 西村 修平)